

成果指標				
成果指標	今年度の利用人数÷過去2年間平均利用人数＝成果指標			
指標設定の考え方	スポーツ活動の環境づくりとして、有料施設の利用者数を事業の評価と考え、指標とした。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標22年度
目 標	1.01	1.01	1.01	0
実 績	0.77	1.33	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	今年度下半期において、施設利用者を対象にアンケート(満足度)調査を実施した結果、114名の方から回答を頂いた。公園内整備・緑地監理状況について、約70%の方が満足されている一方で、トイレ清掃状況は56%と低い結果となっていた。今後も引き続き調査を実施し利用される型のニーズに合った運営に努めなければならない。また、施設の老朽化も進んでいるため、計画的な改修にも取り組まなければならない。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	公園等では、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営などにより、利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・能率的な運営を目指す必要がある。公園施設の有効利用については、全ての施設を画一的に取り扱うのではなく、改めて各施設の価値や重要性を検証したうえで取り組みを進めることが、効率的なストックマネジメントに繋がると考えられる。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	